

## 新たな都市交通調体系のあり方に関する検討会の設置について

### 1 趣旨

都市交通調査の代表的な調査手法であるパーソントリップ調査は、個々人の活動場所への移動(トリップ)等を調査し、圏域全体の移動量(総トリップ数)の把握等を行っているが、テレワークやECの進展等により、移動を伴わない活動や場所に縛られない活動が増加するなど人々の活動と移動に乖離が進んでおり、これらに対応した調査手法への改善等が求められている。

また、移動に関するビックデータが容易に取得可能となったことに加え、シミュレーション技術の高度化等により、多様な分析や3D都市モデルの活用等が可能となっており、ビックデータの特性に留意しつつパーソントリップ調査との連携等を図ることより、都市交通調査手法の効率化や調査結果を用いた推計の高度化等が期待されている。

さらに、各地域で取り組まれている都市交通調査結果等の相互利用や、民間事業者、まちづくり団体等における都市交通データの利活用等を進めていくことも必要である。

このような状況を踏まえ、地方公共団体における都市計画や都市交通計画、立地適正化計画等の基礎となる都市交通調査の調査手法の設計から調査データの利活用までを含めた都市交通調体系のあり方を検討するため、有識者からなる検討会を設置するものである。

### 2 論点(案)

#### (1) 都市交通調査に求められる新たな視点等について

- ・ 人々の暮らしや働き方の行動変容等も踏まえ、ウォークアブルな空間づくりや公共交通の利用促進等の推進に向けて、その検討の基礎データとなる都市交通調査にはどのような視点の追加等が求められているか。

#### (2) パーソントリップ調査、ビックデータの活用等について

- ・ 移動を伴わない活動等が進むなかで、パーソントリップ調査の調査対象をどのように捉えるべきか。特に地方都市圏におけるパーソントリップ調査の活用等を図るために、調査方法の効率化等をどのように進めるべきか。

- ・ ビックデータの活用に当たって、各データ特性等を踏まえた活用の限界や活用時の留意点は何か。また、ビックデータの調達において施策目的毎に必要な標準的なデータセット(種類、範囲、粒度等)はどのようなになるか。
  - ・ パーソントリップ調査、ビックデータそれぞれの活用や、効果的な組み合わせ等により、施策目的に応じた都市交通調査体系をどのように構成することが可能か。
- (3) 都市交通調査結果の更なる利活用等について
- ・ 各地域で取り組まれている都市交通調査結果について、地方公共団体、民間事業者、まちづくり団体等での効果的に利活用を進めるためには、どのような取組が必要か(パーソントリップ調査票の標準仕様、オープン化等)。
  - ・ より幅広い分野でスマート・プランニングの活用を図るためにはどのような支援ツールの構築等が必要か。また、シミュレーションに留まらず、市民、地域との対話ツールとしてスマート・プランニングをどのように活用していくべきか。

### 3 当面の検討会の進め方(案)

第1回(本日)では、論点(案)の内容や議論の進め方等について幅広く意見交換をいただき、第2回(12月16日予定)では実際にパーソントリップ調査や移動に関するビッグデータを活用している方々(自治体委員、コンサルタント)からプレゼンをいただき、議論を深める予定。

第3回以降、委員からのプレゼン等を交えながら各論点を深度化し、令和4年春を目途に本検討会としての中間とりまとめを予定。